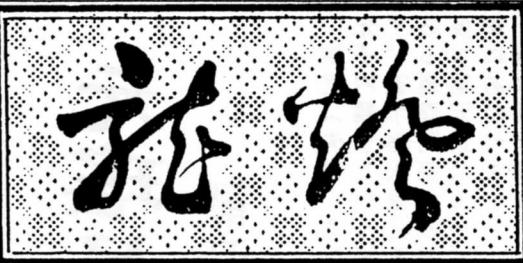


第48号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院
〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行所

発行者 第二十五世住職 奥田啓知(智證)



おめでとうオリックス・バッファローズ！ がんばれ大阪ドーム！

引越し女の大騒音騒動 仏教的解決法は？

「引っ越し！引っ越し！さつさと引っ越し！」大音量の騒音を二十四時間鳴らし続け、布団をパンパン叩きながら、鬼のような形相で怒鳴り散らす主婦。テレビニュースやワイドショーでも度々とりあげられた騒動は世間の耳目を集めました。

「ゴミ屋敷」「マンションでのペット問題」など、隣人トラブルの報道は枚挙にいとまがありません。

私たちは、「みんな仲良く」「他人に迷惑をかけない」「人を憎んではいけない」と教わってきたが、どだい、そんなことは無理なことなのです。

お釈迦さまは、「一切皆苦」といって、人生の現実はずべて思い通りにならないと教えています。生きている限り、いろいろなことがたまたま（厄介事）に見舞われるのです。

人間である以上、社会生活を営む限りは、他人との関係を断つわけにはいきません。お釈迦さまも、「愛する者と別離する苦しみ」と同時に「怨

み憎む者と出会う苦しみ」をそれぞれ「愛別離苦」「怨憎会苦（おんぞうえく）」といって、人間がいくら努力しても回避できない苦しみであると教えています。

日本人はむかし、「引っ越し蕎麦」といったかたちで、隣人とのうまい付き合い方の知恵を持っていました。「あなたのおそば（蕎麦）に引っ越しして参りました。よろしく」の意味で、引っ越し先のご近所に近づき、しるしとして蕎麦を配ったものでした。

こうした慣習は外国にはありません。アメリカでは、隣近所の人々が引っ越ししてきた人の家へ訪ねていくのだそうです。そして、その新来の隣人の家族構成や職業・趣味などを聞き、また自分のほうのそうした情報を教え、お互いの友好関係を確立し時にはご近所を招待して、友好関係を維持高めるのだそうです。ひるがえって、現在の日本では、隣近所のそうした付き合いが薄れてしまいました。日本で



も昔は、醤油や味噌の貸し借りなど、日常茶飯事でしたが。隣人トラブルに見舞われたらそのごたごたをなくそうと考えるはいけません。生きているかぎり、ごたごたはなくならないのですから。

仏教的な解決法は、「忍辱（にんにく）」といって、じっと迷惑を我慢する方法ですが、今回のような場合は、度が過ぎているので、裁判に訴える他なかったとは思いますが。

ここまでこじれたら無理かもしれませんが、思いきって隣家の人を夕食に呼ぶなどしたら、案外和解の糸口が見つかったのかもしれない。どうしても解決できない場合は、別の場所へ引っ越ししか仕方がないでしょう。お釈迦さまも、「縁なき衆生は度し難い」と言っておられます。

元瑤尼と九島院

観音大士画像修繕喜捨



照山元瑤尼

緋宮（朱宮―あけのみや）光子内親王という姫君がいます。後水尾天皇とその女官である逢春門院との間に生まれ、後水尾天皇にとっては第八皇女にあたります。

後水尾天皇は、九島院開山龍溪禪師の法嗣（弟子）で、延宝八年（一六八〇）九月十日に崩御遊ばれるや、内親王は御父君の御尊牌一基と御念持仏といわれる準提觀世音菩薩像を当院に納められ、併せて当院に菊花御紋章の使用も公許されました。

三十二歳のとき、龍溪禪師から菩薩戒をうけられ、御父君ともども黄檗禪の熱心な信奉者となられたのです。

御父君の崩御の二ヶ月後、内親王四十七歳のおりに、御父君の冥福を祈られ、弟君の性真入道親王が門主をつとめる大覚寺門跡に入寺し、天竜寺の天外和尚のもとで落飾得度されました。

天和二年（一六八二）には後水尾法皇の遺勅により、修学院離宮内の朱宮（音羽）御所を仏寺に改築し林丘寺門跡を創建され、林丘寺照山元瑤と号されました。

林丘寺は、拙寺の修養会で平成九年十月十九日に拝塔しました。改修したての開山堂にお参りをし、三百年ぶりに修理したという元瑤尼の座像の前で、参詣者ともども般若心経を唱えさせていただきました。

そのおり、数人の方より、「線香の煙がまっすぐたつて

いるのにお灯明の火が大きいく立ちのぼりユラユラとゆれつつづけているのは、緋宮元瑤尼さまがお喜びになつてのことでしょう」と、聞いた思ひ出があります。

出家後の元瑤尼さまは、ご両親とくに御父君の後水尾上皇さまの追善供養にと、經典の読誦や数多くの写経、観音像画や観音像の製作に専心されました。

これは、作善の功德をすずめる反復的模写が仏道を究める一つの方法であると説く法華經の教えに深く影響を受けられてのことでした。元瑤尼さまと関わりがあった黄檗禪僧の語録には、仏像・仏画を寄進・施与する元瑤さまの行為を讃える漢詩や仏像・仏画の製作が元瑤さまの宗教的実践行為の原動力となつていたことなどが記されています。

本年五月二十三日の黄檗山塔頭萬松院での龍溪禪師の派



馬上観音図（元瑤尼筆）

祖忌法要の席上、痛みが激しかった萬松院什物の「元瑤筆の観音大士像」が、京都府社寺等文化資料保全補助金事業の指定を受け修繕された報告がありました。萬松院負担金参拾萬圓の協議があり、九島院として喜捨させていただき、抽院徒弟の穂積禪士が今夏の八月四日で大本山萬福寺禅堂での修行生活を満了します。その記念に、また元瑤尼さまへの追善供養にとさせていただきます。

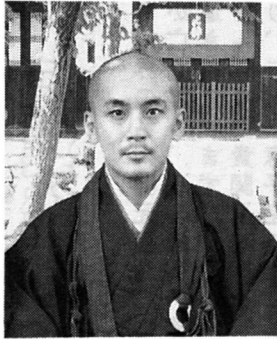
宝永四年（一七〇七）に、元瑤尼さまは林丘寺門跡を退かれた後も、ますます黄檗禪に帰依され、御父君の後水尾天皇が再建した滋賀県日野の正明寺を庇護をされ、その崩御後には自らも滋賀土山に地安寺を再建されました。元瑤尼さまは、当時としては異例の九十四歳という遷化直前まで精力的に活動されました。

おめでとうオリックス・バッファローズ！

がんばれ大阪ドーム！

若和尚檀家デビュー

今秋結婚のはこび



穂積禅士（禅堂前）

一年は速くもあり、長いものです。愚弟の穂積禅士も、この八月四日に、めでたく修行満了し、帰ってきました。まだまだ禅坊主の初歩を学んだだけで、自坊に帰っても毎日が修行です。これからは「上求菩提、下化衆生（じょうくぼだい、げげしゅじょう）」の精神で、自らも精進し自らを高め、困っている人々のために身を尽くしてくれるよう期待しています。さて、穂積禅士の紹介をします。名前は「ほづみ」と読みますが、僧侶の世界では「ほしゃく」と呼びます。頭法（けんぼう）し、小柄より嗣法したら、法諱（ほうき）で

ある僧侶の法名をつけ、黄檗宗から教師に補任されます。昭和五十一年九月十一日の辰年生まれ、二十八歳。本田小学校、市岡高校、関西大学経済学部を卒業し、セントラルファイナンスというクレジット会社で四年勤務の後、昨年七月十九日、三十四・五度の猛暑のなか黄檗宗専門道場（禅堂）に入堂しました。先代弘志和尚自慢の孫で、本田小学校では「青い目の人形受領式」で代表を勤め、テレビニュースでとりあげられた時には、弘志和尚はお檀家さんにしきりに吹聴していたとのことでした。九月一日より、小柄とお月参りに同道し法務につかせる予定です。因みに、十月二十九日には結婚式を控えていますので、その準備のため八月のお盆の棚経は例年どおり、智玄和尚の助けをえて小柄ひとりで勤めます。まだまだ未熟者ですので、なにかとご指導ご鞭撻をいただきますれば幸甚です。

阪神西大阪線難波延伸工事すむ

日本人 一分遅れに

湯気をたて

相合傘句会

H17・5/21
句題（席題）「湯気」で

地位

奉納抄

○金拾萬円寄進（平成十七年三月二十日）

大内みつゑさまより、穂積禅士の入堂祝いにお祝いを頂きました。頭法衣の購入費用にさせていただきます。

○金拾萬円寄進（平成十七年五月四日）

勝田敬子さまより、亡母一周忌の追善供養にとご喜捨がありました。お寺のため有意

○金五萬円寄進（平成十七年三月十五日）

森本きよ子さまより、ご喜捨を頂きました。有意義に使わせていただきます。

○松隠堂金百萬円寄進

大本山萬福寺の松隠堂の解体修復工事に、九島院として金百萬円を納金しました（松田勝様より金壱萬円、和田フミエ様より金伍萬円を含む）



檀信徒の皆さまへ

本年の修養会は、穂積禅士の結婚にともなう諸雑務のため、休止いたします。悪しからずご諒承下さい。来年は必ず実施します。ご参加を！

編集後記

● 盲犬・「プーマ」の災難？

前号で紹介した我が家のニューフェイス、盲導犬を引退したプーマ君ですが、二匹の先輩犬の鉄槌に耐えてようやく寺族の一員になり、快適なリタイア生活を楽しんでいました。

「好事魔多し」「一寸先は闇」。大変なことになりました。西区新町で盲導犬を求めておられる中途失明の男性がおられ、盲導犬の申請をしても音沙汰がないと、拙寺にやって来られたのです。

折角、我が家の一員になったばかりのプーマでしたが、食い癖が悪いだけで、年齢的にもまだまだ立派に盲導犬の勤めがはたせると、日本ライトハウスの担当者が、男性との面談の機会をつくりました。

その翌日のことです。三匹と小柄で遊んでいると突然、プーマが腰砕けに倒れてしまったのです。動物病院に駆けつけ検査してもらいました。血液検査の結果、自己免疫性溶解性貧血だと判りました。

これは、何らかの原因で自己赤血球の抗原に対する抗体が作られ抗原抗体反応の為に赤血球が障害を受け、溶血し貧血を起こす病気だということでした。一口に言えば、血液中の赤血球が溶け貧血をおこす病気なのです。

血液中の赤血球容積が37～55%が正常値のところ、なんと18.9%しかない状態でした。まさに油断のできない厳しい症状なのです。

その原因を一つ一つあたって、医学的には何も該当しませんでした。思い当たるのは、前日の事件「盲導犬の再雇用の件」しか考えられません。

先輩犬のリョウから血液を大量に輸血し、きつい薬の投薬を二ヵ月続け、なんとか元気になりましたが、本当にストレスは怖いものです。病気は「気を病む」ことから始まるのですね。

しかしこれで、リョウとプーマは血を分けた兄弟となり、プーマは本当に寺族の一員になったのです。



ぼりぼり

▼角界の名大関元貴乃花の二子山親方が亡くなり、その通夜・葬儀が連日報道されています。
▼「双綱院貴関道満居士」の法號どおり、二人の息子を横綱にした稀代の名伯楽でした。
▼「世界一幸せな家族でしたが、世界一苦しみを味わった家族でした」とは離婚した憲子婦人の弁。
▼仲のよかった兄弟が、通夜の席で目

も合わせない。若・貴ふたりの息子の確執、婦人の不倫騒動。そして離婚。▼葬式は人間ドラマの始まり、遺産相続をめぐる世間の耳目を集めることでしょう。
▼「晩節を汚す」というには、五十五歳の享年はあまりにも早く、そしてあまりにもドラマチックな葬儀でした。
▼しかし、こんなことは、どんな家庭にも多かれ少なかれ、あることではない。
▼「一切皆苦」「思うようにならないのが世の中」だと、お釈迦さまも説いています。その原因は、人間のもつ煩惱や執着にあると諭されています。

▼親子の情を殺して徹底して弟子を育て、横綱に生きた二子山親方の生きかたは、角界に生きる者にとって、絶賛されるかも知れません。しかし、その反面、失ったものの余りにも大きいこと
▼人生の最後は、禍根を残さずに逝きたいものです。小柄流に言うならば、「あとわる人生」は惨めなものです。
なんとか、この後味の悪さを、若貴兄弟が氷解し、「終わりよければ全てよし」の結末にしてほしい。
墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折り、郵便振込でも結構です。

阪神西大阪線難波延伸工事すすむ

ご案内

水灯会・お施餓鬼法要

8月19日(金)

午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありませんご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職